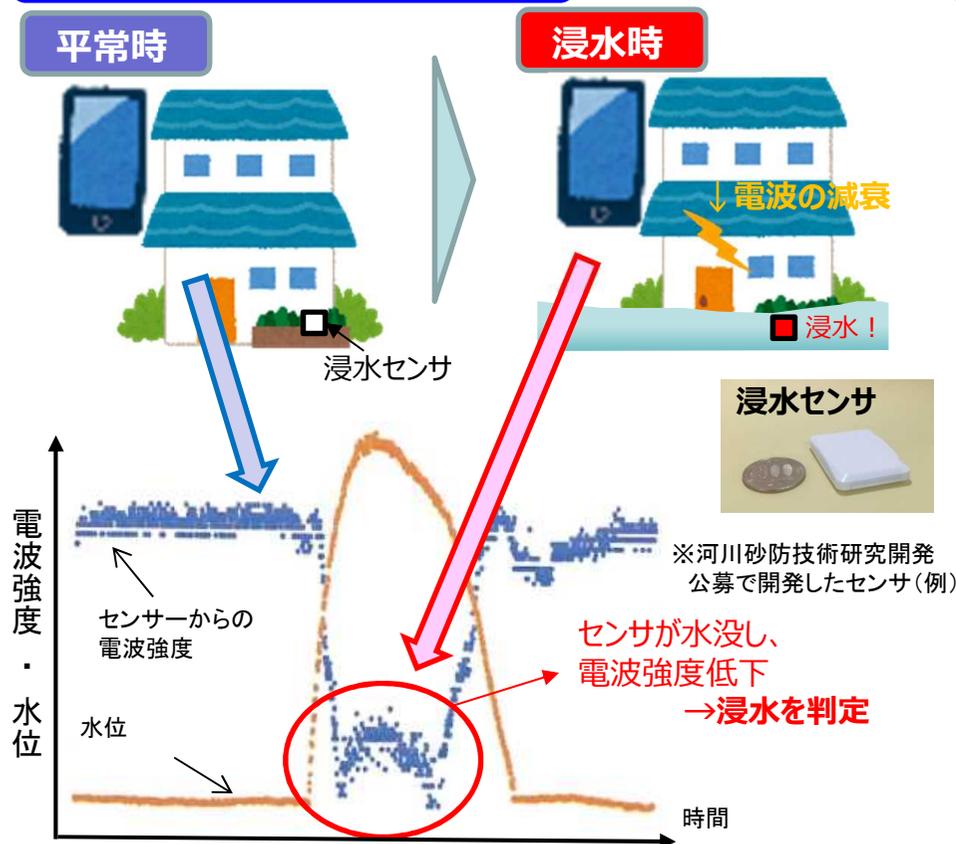


浸水状況把握の取組について(1/3)

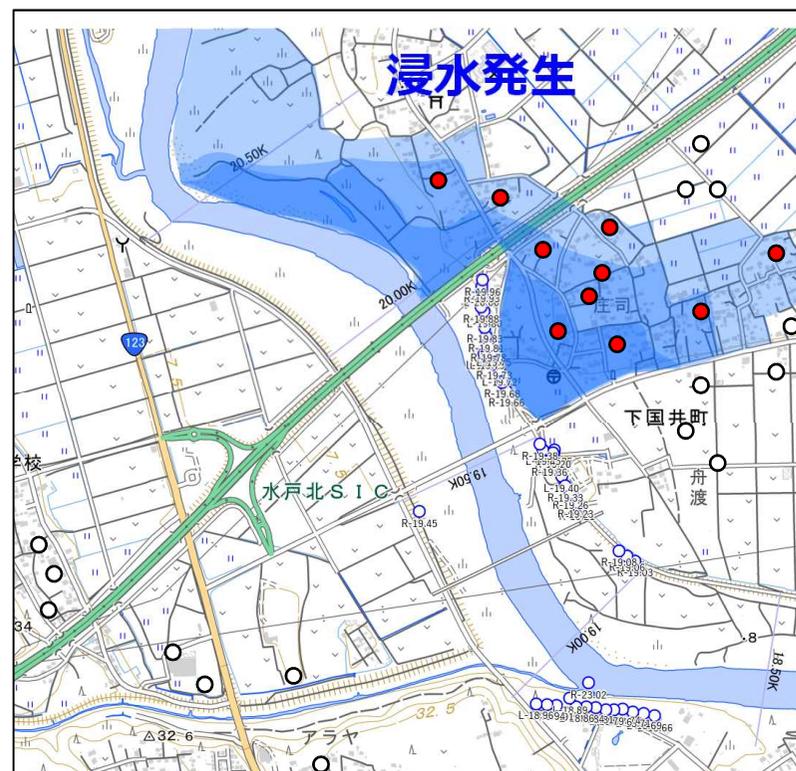
資料-6

- 大雨による浸水被害が頻発するなか、堤防の越水・決壊などの状況や、地域における浸水状況の速やかな把握が求められています。
- そのため、小型、長寿命かつ低コストで、堤防や流域内に多数の設置が可能な浸水センサを企業や地方自治体等との連携のもと設置し、情報を収集する仕組みの構築に向けた取組を進めています。
- 例えば、センサが水没することによって水で電波が減衰。受信機に到達する電波強度の低下を検知し、浸水を把握するセンサを河川砂防技術研究開発公募で開発。

センサによる浸水把握 (例)

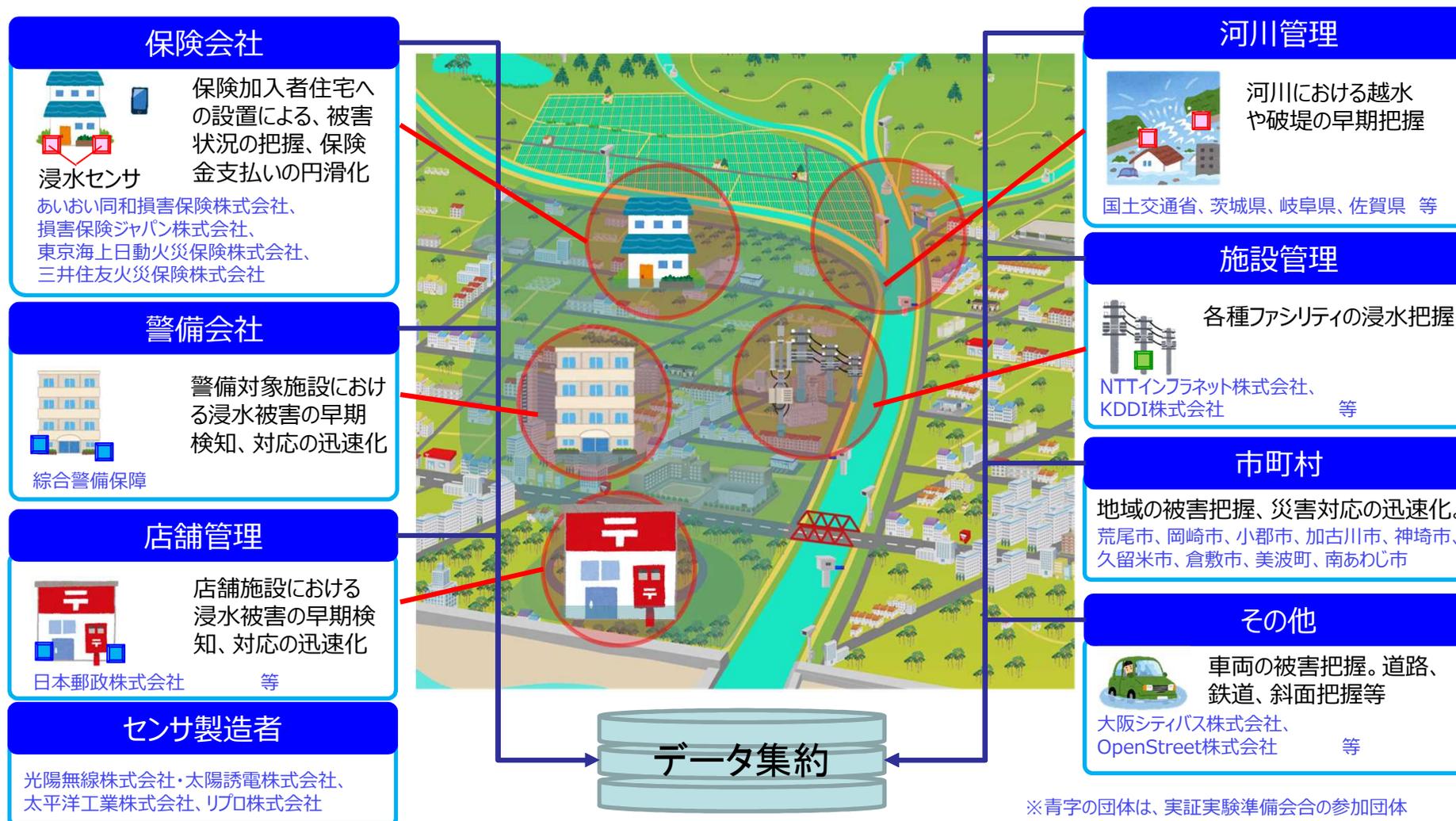


浸水センサ監視イメージ



浸水状況把握の取組について(2/3)

- 浸水センサの設置者が、被害状況の迅速な把握と対応の円滑化が可能となるとともに、それらの情報を参画企業等で共有することで、流域全体の災害対応力が向上。
- そのため、浸水データの共有、効率的な管理を行う共通プラットフォームを構築



※青字の団体は、実証実験準備会合の参加団体

浸水状況把握の取組について(3/3)

- 今年度より実証実験に向けた準備会合を開始し、民間企業や、自治体など44団体が浸水センサ等の技術動向の把握や、実証実験に向けた仕様などの検討を実施しているところです。
- 今後、実証実験への参加企業等を公募し、R4年度より実証実験を開始する予定です。

R3.9月10日
～9月30日

準備会合
公募

- ・準備会合参加企業、自治体等を公募
- ・公募説明会 9月16日(木)

R3.11月
～12月

準備会合
仕様検討

- ・実証実験の仕様を準備会合で検討(全4回程度)

R4.1月頃～

実証実験
公募

- ・仕様に基づき実証実験参加企業等を公募

R4年度
(出水期)～

第一次
実証実験

- ・仕様に基づき、センサ等を製造・調達開始
- ・実証エリア(全国2,3地域を想定)にセンサを設置、
実証実験を実施
- ・必要に応じ、エリアを拡大し、第二次実証実験等を実施

実装
段階

恒久的な体制を構築
(数千万箇所以上設置を目指す)